

奥三河 栃ノ木沢より三河明神山

5月13日(日) 晴れ時々曇り

L: ヤママ、磯部S(記)、大山

近回りの沢の中で、天竜川水系はやや暗いイメージがあるが、ここ奥三河・豊川水系は溪相が異なり、比較的明るい沢が多いらしい。

朝出発で9時前には入渓し、変化のある楽しい一日であった。

水量は残念ながら乏しく、露出したナメ床はぬめっていて滑りやすい。

それでも大岩ごろごろよりは、風景はなめらかで気持ちも穏やかに落ち着く。

直に小滝の釜があり、右に巻けばたやすく通過できるが、それでは最初から逃げているようで前向きでない。

まずは磯部がトライ。左をへつるも手がかりが乏しく、水の中の足がかりを探しながら進んでいく。

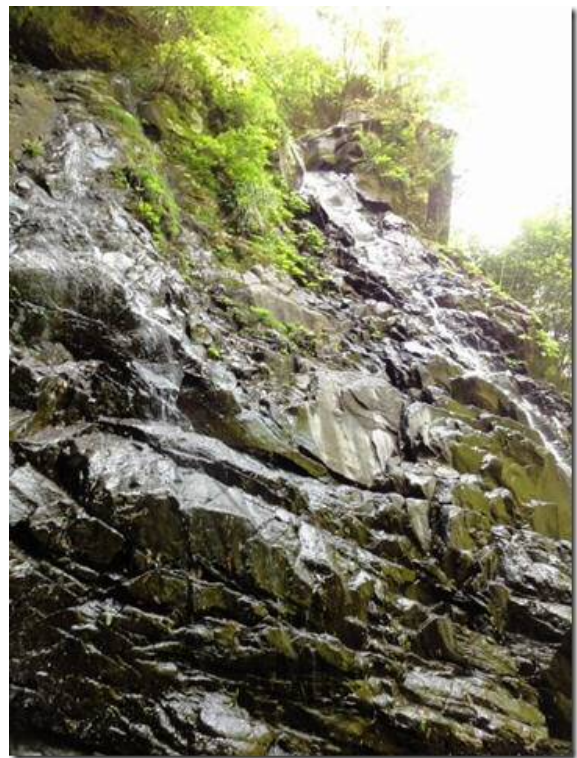
も、中ほどで進退窮まり滑って水没。すっきりしたぜ！とそのまま少し泳いで小滝を通過した。

(残り2名は巻く。冷静な判断である。)

一度はまると肩の力も抜け、より楽しくなった。のち2箇所ほどお助けロープ、肩支点、手支点で通過するところはあったが基本沢歩きである。



トップはセカンドの肩や手を支点として登り、セカンドは補助ロープで。



ひよえ～な大滝

中盤も過ぎたところ、いよいよ核心の20M弱の大滝である。

濡れた逆層ぎみなスタンスはいやらしそうでリーダーは安全策を取り右から巻こうとするが、ここは大山さんが直登トップを申し出る。

さすが“静かに燃える女、大山”。幅広な滝の中央を登っていき、ラストは左の水線まで2mほどのトラバースに少し戸惑う。

磯部がセカンドで向かうと要所要所に古くさびたハーケンはあるものの、ぬめりが強く不安感が募る。

ラストはほぼハーケンを足場とし、テンションをかけなりふり構わず登った。

あらためてトップの力に敬服する。



乾いたナメが続く・・・

そこを過ぎると小さなナメが連続し、やがて右からの明神山に向かう一般道と合流した。

沢はもう少し続くがそこで終了となる。

靴を履き替え、そこからトラバース気味に急登し尾根に出ると、少し登って頂上となった。汗が吹きこぼれた。

ここはルートが何本もあるのだろうか、たくさんの人が休憩していた。展望台があり景色はすばらしく、山々の透き通った新緑が初夏を感じさせる。さち子さんからもらった冷えたノンアルコールビールは最高だった。

帰りは沢の終了点まで戻り、そこから一般道を下った。



展望台からのすばらしい景色（見知らぬおじさんです）

<タイム> キャンプ場奥の駐車場[入渓点] (8:30) - 大滝 (10:00-11:20) - 終了点 (11:50) - 明神山 (13:00-13:25) - 駐車場 (14:45)

以上